

平成20年度 第1回御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会

日時 : 平成20年9月2日(火)午後1時30分～午後4時

場所 : 市役所第5会議室

出席委員 : 前田慶子・福島正昭・神保久美子・勝亦祐貴・志水香苗・渡邊
恵子・芹澤敏弘・本多 淳・渡辺好美・沓間 捷・菅沼健晃・岩
田和博・伊倉富一・上道久仁子・山本育実・杉山泰芳・山崎和夫・
沓間信幸・湯山益栄・杉山賢吾

事務局 : 内田課長・瀬戸補佐・勝又主幹・勝又主事

1 会長挨拶

市では、総合計画の後期基本計画を策定中であり、協働のまちづくりを
うたっている。この計画案については、市民の意見を求めている。協議
会として提案をしたらどうかと考えている。

市民交流センターの中に市民活動室がオープンする。いい施設にしてい
きたいと思う。市民活動支援センターの委託を受けたNPO法人静岡県
東部パレット市民活動ネットワークにも出席していただいている。

静岡県のセンターとのネットワークも充実させていきたい。

(1)御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会の進め方について

資料により事務局から説明

説明要旨

市民へのPRと協働の雰囲気醸成に取り組む。

・市民活動見本市の実施

御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金も実施手法を検討する。

市民活動室の活用について協力する。

協議会委員研修(NPO活動推進自治体フォーラム参加)

(2)平成20年度御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会予算書について

資料により説明

委員A : 進め方の中に、協働の啓発とあるが、どのような活動を予定してい
るのか。

事務局 : 市民活動見本市での、市民協働関係の展示及びパンフレットの配布

によるPRを予定している。これまで、PR用に配布できる資料がなかったが、昨年度作成したパンフレットを委員の皆さんに配布していただき、来場する市民に市民協働型街づくりをPRしていただきたい。

委員B：委員研修は、NPO活動推進自治体フォーラム静岡大会に参加とのことだが、2日間参加するのか。

事務局：委員研修として参加するのは、初日の全体会のみとなる。2日間参加される委員は、個人として申し込んでいただきたい。全体会参加時には、協議会でバスを出すので利用していただきたい。

(3)監事の選任について

事務局：協議会の設置要綱には、監事の設置規定はないが、市監査委員事務局から、監事による監査を受けるように指導があった。このため、委員の中から監事を2名お願いしたい。事務局からの提案として、神保久美子委員・菅沼健晃委員の2名を監事として提案させていただく。

承認。

(4)御殿場市民交流センターについて

資料により交流センターの概要について・市民活動室の利用要領について説明。

パレット：職員紹介 東部パレット副代表・事務局長野村・御殿場市市民活動支援センター長湯山・同スタッフ石川

パレット：このほかに4名の女性スタッフでシフトを組んで対応する（スタッフは、すべて御殿場在住）。東部パレットは、県の市民活動支援センターである東部パレットを運営している。もともと利用者団体が集まってできたNPO法人である。東部パレットオープン時には、運営のノウハウがなかったため、非常に苦労した。その経験を御殿場で活かしていきたい。県東部地区でのお手本となるような運営をして、ほかの地域へも広げていきたいと考えている。

委員C：立派な施設が完成したが、今後は、ソフトが肝心である。市民活動のPRをしていきたい。

(5) その他

委員 C : 市の基本計画に協議会として意見を出していくか、みなさんの意見を伺いたい。

委員 A : 全体として協働に対する理解が薄い人が多い。行政との協働といわなくてもさまざまな活動がある。しかし、協働について知らない市民が多すぎるので少しひろげていきたいと思う。今回、市民活動支援センターができることがゴールではないと思う。

委員 C : 自治会・婦人会など既存の活動団体などもある。市民活動支援センターのオープンにより、活動を活性化させたい。市民みんなが、楽しく地域活動できるようにしたい。

委員 D : 区長のなかにも市民協働型まちづくり推進協議会をしらない方もいる。ボランティアなどの活動をしたい人に情報が入らない現状があるので、自治会に向けても情報発信してもらいたい。

委員 E : 情報発信は重要だと考えている。市民活動支援センターからの情報発信をしてもらいたい。

委員 F : すでに協働していても、気づかない人もいる。小さなことでも協働できるようにしてもらいたい。

委員 G : もともと地域社会は、道普請などで協働をしていた。今、自治会などが取り組んでいることも協働だといわないとわからないと思う。もともと協働していることもあるのに言葉だけが先行しているように思う。分業が進みすぎて、行政にまかせればよいという考え方が広まっているのではない。

委員 H : 困っていることがあれば、動かなければいけないと思う。何か課題があれば、力をあわせてできるというものがあればいいのではないか。

委員 C : さまざまな意見をいただいた。予定の時間を過ぎたので、終了とするが、来年度の補助金事業が活用されるように、事務局はもちろん委員もいまから P R していただきたい。

閉会后、御殿場市民交流センターへ移動し見学。